平成18年度中間評価結果（平成19年3月）

［研究開発課題名］　**日常行動・状況理解に基づく知識共有システムの研究開発**
［委 託 機 関 名］　**株式会社国際電気通信基礎技術研究所**

項目	評価ランク	所見	再評価ランク	再所見
総合所見	A	（技術：研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見） 医療看護現場における事故の低減という社会的関心の高い問題の解決を目指した研究となっており、期待される効果は非常に大きい。また、行動・状況理解技術、知識構築技術、知識提供技術という3側面から総合的にアプローチしている点、データ収集に関する技術開発については高く評価できる。 一方、データの分析法が単に既存の技術を適用したレベルにとどまっている点、コーパス作成への展望が必ずしも明確でない点が不安材料として挙げられる。また、システム全体として求められる機能のうち、自動化が必要な部分とツールとしての使い勝手の工夫で対応すべき部分との切り分けに関する検討がやや不足している。さらに、知識提供技術におけるビデオ作成支援に関する部分は問題設定の妥当性を含め再検討が求められる。	―	（技術）
		（事業化：事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的所見） 本研究開発成果を、看護業務の負担軽減とそれによる医療事故の削減に効果のある看護業務支援システムとして事業化する計画である。看護業務支援システムについては、総務省で計画されている「医療現場のユビキタス化」に対応しており、[redacted]ことからも、一定の収益が期待される。 また、看護業務支援システムの要素技術を用いて、装着型センサ・ネットワーク・プラットフォーム、イベント駆動型音声入力式業務記録装置、ミーティング仮想化システムといった横展開を計画している。特に装着型センサについては、パイロット・ビジネスとして既に第一ロット[redacted]が完売しているなど、今後の事業の本格展開が期待される。		（事業化）

（注）総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。